

吐き気がする病気

症状と治療

- ・吐き気とは、上腹部を中心に起こる不快感のひとつであり、嘔吐しそうなムカムカとする感じをいいます。
- ・嘔吐は、胃内の食物や消化液を口から吐くことです。
- ・吐き気や嘔吐は、胃や腸に異常のある場合、嘔吐中枢の存在する脳延髄に異常が起こった場合、嘔吐中枢と関係の深い内耳に異常が起こった場合、毒物や有害物質を飲み込んだ場合、腎臓の病気などで体内に老廃物がたまった場合などで起こりやすく、胃や腸以外の多くの病気でもよく起こる症状です。
- ・胃や腸の病気は、ほとんどすべての病気で吐き気や嘔吐を起こす可能性があります。
- ・頻度の多いものとして胃炎、胃潰瘍があり、これらの病気を診断するには多くの場合、胃の内視鏡検査が必要です。
- ・急に嘔吐を起こす胃腸の病気としては腸閉塞が代表的で、腹痛と嘔吐を来し、早急にX線検査を行って治療を始める必要があります。
- ・そのほか、脳の病気を疑う時には頭部CT検査を行います。
- ・それ以外の病気では、血液検査や耳鼻科的な耳の検査が必要になることもあります。
- ・吐き気、嘔吐があり、下痢や腹痛を伴っていれば胃腸の病気のことが多く、腸閉塞以外に胃炎や食中毒などの腸の感染症も多くみられます。

急患診療センターを受診するめやす

- ・吐き気や嘔吐が強く、食事が食べられない場合や、腹痛が強い場合
- ・吐き気を伴わずに嘔吐が起こり頭痛を伴う場合
- ・吐き気や嘔吐が3～4日以上続いている場合